

研究ノート

三重県総合博物館所蔵 貝類コレクション — ツキガイ科・カゴガイ科 —

中野 環

〒514-0061 三重県津市一身田上津部田3060 三重県総合博物館

キーワード: 三重県立博物館, 金丸但馬, 阿部 茂

Tamaki Nakano*. 2017. Molluscan collection of the Mie Prefectural Museum — Family Lucinidae・Fimbriidae —
Mie Prefectural Museum Research Bulletin, 3: 13-25.

*Corresponding author: Mie Prefectural Museum, 3060 Ishinden, Kouzubeta, Tsu, Mie 514-0061, Japan (nakant11@
pref.mie.jp)

はじめに

三重県総合博物館は、服部哲太郎氏、金丸但馬氏、阿部茂氏、加藤次雄氏、高見吉太郎氏、河芸町立図書館、三重県立長島高等学校等から寄贈を受けた貝類標本を収蔵している。各コレクションの概要と含まれる日本産のシオサザナミガイ科 Psammobiidae およびキヌタアゲマキ科 Solecurtidae、トウカムリガイ科 Cassidae については報告した（中野, 2015, 中野, 2016）。

本報文では、三重県総合博物館が収蔵する日本産の貝類標本の中から、2016年12月31日現在整理、登録されたツキガイ科 Lucinidae およびカゴガイ科 Fimbriidae の貝類をリストとして報告する。

ツキガイ科およびカゴガイ科目録

ツキガイ科に属する貝は、円形に近い形状で、多くの種はふくらみが弱い。前筋痕は比較的長く、水管を有さないため套線は湾入しない（波部, 1977; 佐々木, 2010）。殻表の彫刻が平滑な種、顕著な輪脈を有する種、布目状になる種など変化に富む。また、多くの二枚貝では、主歯や側歯など鉸歯の形状や数は、各科毎に決まっており、重要な分類形質の1つとなっているが、ツキガイ科については、歯が無いもの、主歯だけのもの、側歯もあるもの、前側歯のみのものなど、鉸歯の有無や数は様々で、亜科レベルで異なる（大山,

1992）。肥後・後藤（1993）は、ツキガイ科をツキガイ亜科 Lucininae, ツキガイモドキ亜科 Myrteinae, カブラツキガイ亜科 Milthinae, セワケツキガイ亜科 Divaricellinae の4亜科、日本産として35種を掲載している。奥谷（2000）をはじめ、多くの文献では、カゴガイ科 Fimbriidae は、ツキガイ科と区別されてきたが、近年、カゴガイ属 Fimbria としてツキガイ科に含めることもある（佐々木, 2010）。本報文では奥谷（2000）に従い、カゴガイ科 Fimbriidae とし、ツキガイ科と区別して記述した。

三重県総合博物館は、ツキガイ科14種、カゴガイ科1種を収蔵する。本目録には、1ロット中に複数の地名のラベルが混在したものは含めたが、産地不詳の標本については掲載しなかった。科、属の配列は、主として日本近海産図鑑（奥谷, 2000）に従った。和名、学名以下は、採集地、採集日、個体数、採集者、三重県総合博物館登録番号（コレクション名）とした。尚、採集者については、コレクション所有者と異なる場合のみ記載した。半片だけの標本も多いため、個体数については1片、2片という表記をした。また、採集地の地名は、採集当時のものではなく、市町村合併を反映した2017年1月現在の名称とした。但し、必要と思われる場合は（ ）内に原ラベルにある地名を記入した。また、検討が必要な種や、三重県から記録がある

種については、生息記録等について言及した。なお、種数は、「亜種」や「型」も、それぞれ1種としてカウントした。

Family Lucinidae ツキガイ科

1. ツキガイ *Codakia tigerina* (Linnaeus, 1758)

三重県志摩市大王町船越，採集日不明，1片，
Sh015320，(河芸図書館)。

備考：本種の殻表は，放射肋と輪肋が交差し，布目状になる。紀伊半島以南に分布し，潮間帯から水深20mの砂地に棲息するが(奥谷，2000)，これまで三重県からの記録はない(松本，1979；松本，1994)。

河芸町立図書館から寄贈された個体(Sh015320)は，ラベルに大王町船越と産地が記載されているが，殻表の状態から判断すると，放棄された土産品等の可能性もあり，三重県内に棲息していたかについては疑問が残る。

2. クチベニツキガイ *Codakia punctate*

(Linnaeus, 1758)

沖縄県，採集日不明，片1，Sh002768，(金丸)。

※ ラベルには“沖縄(二見ニテ)”とメモあり。

3. ウラキツキガイ *Codakia paytenorum* (Iredale, 1937)

沖縄県，採集日不明，6，Sh002746 (金丸)。

沖縄県，採集日不明，4，Sh002747 (金丸)。

沖縄県，採集日不明，2，Sh002750 (金丸)。

沖縄県，採集日不明，2，Sh002751 (金丸)。

備考：殻内面は淡黄色で紅彩される個体もあり(吉良，1954)，本コレクションにも套線の外側部分が紅色を帯びる個体が多く含まれている。殻表は布目状であるが，ツキガイに比べて滑らか。

4. ウミアサ *Epicodakia delicatula* (Pilsbry, 1904)

神奈川県鎌倉市腰越，6+12片，Sh002737 (金丸)。

静岡県下田市白浜，採集日不明，1片，Sh002738 (金丸)。

静岡県下田市白浜，1932/8/12，6片，Sh002779 (金丸)。

石川県富末町，採集日不明，2，Sh002782 (金丸)。

愛媛県越智郡，採集日不明，1，Sh002781 (金丸)。

三重県熊野市新鹿，1938/12/18，2，Sh002739

(金丸)。

三重県熊野市木本町，採集日不明，7片，Sh002778 (金丸)。

三重県熊野市(七里浜)，採集日不明，6片，
Sh002752 (金丸)。

三重県熊野市(七里浜)，採集日不明，13片，
Sh002780 (金丸)。

和歌山県御坊市名田，採集日不明，5+7片，
Sh002783 (金丸)。

鹿児島県奄美大島(大隈大島)，採集日不明，3片，
Sh002784 (金丸)。

鹿児島県(奄美)，採集日不明，1，Sh002785，
(金丸)。

備考：本コレクションの個体は両殻が揃った個体は少ないが，棲息個体数は少なくない。

三重県では御座，宿浦，神前浦，紀伊長島，新鹿から記録がある(松本，1979)。岩礁域の砂地などに棲息する。

5. ヒメツキガイ *Epicodakia bella* (Conrad, 1837)

沖縄県，採集日不明，3，Sh002757，(金丸)。

沖縄県，採集日不明，2，Sh002771，(金丸)。

6. ホソスジヒメツキガイ *Epicodakia* sp.

神奈川県鎌倉市腰越，採集日不明，1，Sh021298，
(金丸)。

鹿児島県(奄美)，採集日不明，2片，Sh002785，
(金丸)。

備考：肥後目録では，本州中部から九州にかけて分布するとされており，大山(1960)には潮岬産の個体が図示されている。

本コレクションに含まれている個体は，殻がやや横に長く，放射肋上が細かく刻まれていることから本種とした。

7. ウメノハナガイ *Pillucina pisidium* (Dunker, 1860)

三重県鈴鹿市白子，1931/8/6，4+8片
Sh002772 (金丸)。

三重県津市河芸町上野，1979/10/28，8片，
Sh015287 (河芸図書館)。

三重県志摩市磯部町，採集日不明，11片，
Sh002773 (金丸)。

和歌山県田辺市，採集日不明，3，Sh002774
(金丸)。

備考：三重県では，津，御座，五ヶ所，神前浦，新鹿から記録がある（松本，1979）。

志摩半島の内湾域では，個体数は多くはないが，小型の個体を確認できる。

8. アラウメノハナ *Pillucina yamakawai*
(Yokoyama, 1920)

三重県度会郡南伊勢町古和浦，採集日不明，
片4，Sh002765（金丸）。

備考：当館が所蔵する標本は4片で，内2片は捕食された際にできた穴が開く。

三重県では津水深5～30mから記録があるが（松本，1979），それ以外の情報はほとんどない。

9. ムツキウメ *Bellucina civica* (Yokoyama, 1927)
長崎県，採集日不明，1，Sh002766（金丸）。

備考：当館が所蔵する標本は1個体のみ。死殻で状態は良いとは言えない。

三重県からは報告はないが，紀北町および尾鷲市で確認している（中野未発表）。

10. ツキガイモドキ *Lucinoma annulatum* (Reeve, 1850)

神奈川県，採集日不明，3片，Sh002743（金丸）。

愛知県西尾市一色町（三河一色），採集日不明，2，
Sh002744（金丸）。

三重県伊勢市東大淀，採集日不明，1+4片
Sh002745（金丸）。

三重県伊勢市東大淀，採集日不明，1，Sh002756，
(金丸)。

三重県北牟婁郡紀北町紀伊長島区

1967/12/13，1片，Sh019368（県立博物館）。

備考：奥谷・橋本（1997）は，本種の学名を
Lucinoma acutilineatum (Conrad, 1849) として
整理したが，本報告では，奥谷（2000）に従い，
Lucinoma annulatum (Reeve, 1850) を採用した。

当館が所蔵する個体のうち，愛知県産（Sh002744）
以外は死貝である。

三重県では白子（鈴鹿市），有滝（伊勢市）の水深20-30mから記録があるが（松本，1979），現在，
生きた個体はほとんど見られない。また，1980年代

はじめ頃には，伊勢市二見町の海岸で打ち上げられた貝殻を得ることができたが，最近は目にしなくなった。

11. オオツキガイモドキ

Lucinoma spectabilis (Yokoyama, 1920)

鹿児島県鹿児島市新島町燃島，採集日不明，1，
Sh002740（金丸）。

備考：本種は大型で前後にやや長く，同心円肋が明瞭に現れる特徴がある（奥谷・橋本，1997）。

三重県では尾鷲沖200mから記録があり，松本（1979）に図示されているが，本コレクションには三重県産の個体は含まれていない。

12. ヨシダツキガイモドキ

Lucinoma yoshidai Habe, 1958

三重県伊勢市東大淀町，採集日不明，片1，
Sh021297（金丸）。

備考：本種は紀伊半島・島根県沖以北の水深100～200mにかけての砂底に棲息するが（肥後，1993），これまで三重県から記録は無い（松本，1979）。

殻は，やや薄質で膨らみが弱く，後縁は裁断状で殻頂から後腹隅に弱い褶が現れる。また，殻表には粗い輪脈が板状に並び，その間に多数の二次肋がある（黒田ら，1971）。幼若期は横長の五角形で成長に伴い殻高比が増し，円形または楕円形状になる。成長段階によらず前端に鈍角があり，後端は裁断状になる特徴を有する（奥谷・橋本，1997）。

本コレクションの個体は，上記の特徴を示すことから本種とした。

13. カブラツキガイ

Anodontia edentula (Linnaeus, 1758)

鹿児島県奄美大島（大隈大島），採集日不明，
2+1片，Sh002741（金丸）。

沖縄県，採集日不明，2，Sh002742（金丸）。

沖縄県（小湾），採集日不明，2，Sh002753（金丸）。

沖縄県，採集日不明，2，Sh002754（金丸）。

備考：Sh002741，Sh002742はよく膨らみ球形で，イセシラガイに似るが，前後背縁は直線的にならず，丸みを帯びる点からカブラツキガイとした。

14. イセシラガイ *Anodontia stearnsiana* Oyama, 1954
 愛知県西尾市一色町(三河一色), 採集日不明, 2片,
 Sh002760 (金丸).
 三重県津市, 採集日不明, 3片, Sh002755 (金丸).
 三重県津市, 採集日不明, 1, Sh002758 (金丸).
 三重県津市・伊勢市, 採集日不明, Sh002759 (金丸).
 ※ラベルには津市, 伊勢市の2箇所の地名が記載さ
 れている.
 和歌山県田辺市田辺湾, 採集日不明, 2片,
 Sh002761 (金丸).
 岡山県(備前甲浦村), 採集日不明, 1,
 Sh002762 (金丸).
 長崎県長崎港, 採集日不明, 4, Sh002763 (金丸).
 備考: 本種は, 前後背縁が直線的になることでカブラ
 ツキガイと区別ができる. 本コレクションには合弁
 個体も含まれる.
 三重県では, 有滝, 紀伊長島, 新鹿の水深20mか
 ら記録がある(松本, 1979). 現在でも, ごく希に
 伊勢湾および熊野灘沿岸で打ち上げられた個体をみ
 ることがあるが, いずれも片殻のみ.

Family Fimbridae カゴガイ科

1. カゴガイ *Fimbria soverbii* (Reeve, 1841)
 沖縄県, 採集日不明, 1, Sh002786 (金丸).

謝辞

本報文をまとめるにあたり, 田中眞人氏には, 種の
 同定に関してご助言いただいた. また, 池辺進一氏に
 は, 本報文を査読いただいた. 記して感謝の意を表し
 たい.

引用文献

- 波部忠重. 1977. 日本産軟体動物分類学 二枚貝
 綱/掘足綱. 北龍館, 東京. 372pp.
 肥後俊一・後藤芳央. 1993. 日本及び周辺地域産軟体
 動物総目録. エル貝類出版, 大阪. 693pp.
 吉良哲明. 1954. 原色日本貝類図鑑. 保育社, 大阪.
 240pp.
 黒田徳米・波部忠重・大山桂. 1971. 相模湾産貝類.
 丸善, 東京. 734+489+51pp.+121pls.+1map.
 松本幸雄. 1979. 三重の貝類(三重県産貝類目録).
 鳥羽水族館, 鳥羽. 179pp.

- 松本幸雄. 1994. 「三重の貝類」追加目録. 三重動物
 学会会報, 17: 9-28.
 中野 環. 2015. 三重県総合博物館所蔵 貝類コレク
 ションーシオサザナミガイ科・キヌタアゲマキ科ー.
 三重県総合博物館研究紀要1: 37-49.
 中野 環. 2016. 三重県総合博物館所蔵 貝類コレク
 ションートウカムリガイ科. 三重県総合博物館研究
 紀要2: 49-59.
 奥谷喬司・橋本惇. 1997. 駿河湾湾口付近の金州の瀬
 から採集されたツキガイ科二枚貝の一新種および日
 本産ツキガイモドキ属現生種の整理. *Venus*, 56(4):
 271-280.
 奥谷喬司編著. 2000. 日本近海産貝類図鑑. 東海大学
 出版会, 東京. 1173pp.
 大山 桂. 1960. THE MOLLUSCAN SHELLS IV.
 大山 桂. 1992. ツキガイ科について. かきつばた, 18:
 1-4.
 佐々木猛智. 2010. 貝類学. 東京大学出版会, 東京.
 381pp.

图 版

Plate.1

1. ツキガイ *Codakia tigerina* (Linnaeus, 1758)
三重県志摩市大王町船越, 採集日不明, 殻長75.0mm, 殻高66.4mm, [Sh015320].
2. クチベニツキガイ *Codakia punctate* (Linnaeus, 1758)
沖縄県, 採集日不明, 殻長52.7mm, 殻高48.5mm, [Sh002768].
3. ウラキツキガイ *Codakia paytenorum* (Iredale, 1937)
沖縄県, 採集日不明, 殻長30.0mm, 殻高29.8mm, [Sh002746].
※ 殻内面の縁が赤く縁取られる個体
4. ウラキツキガイ *Codakia paytenorum* (Iredale, 1937)
沖縄県, 採集日不明, 殻長37.1mm, 殻高36.6mm, [Sh002747].
※ 殻内面の縁は, ほとんど赤く縁取られない個体

Plate.1

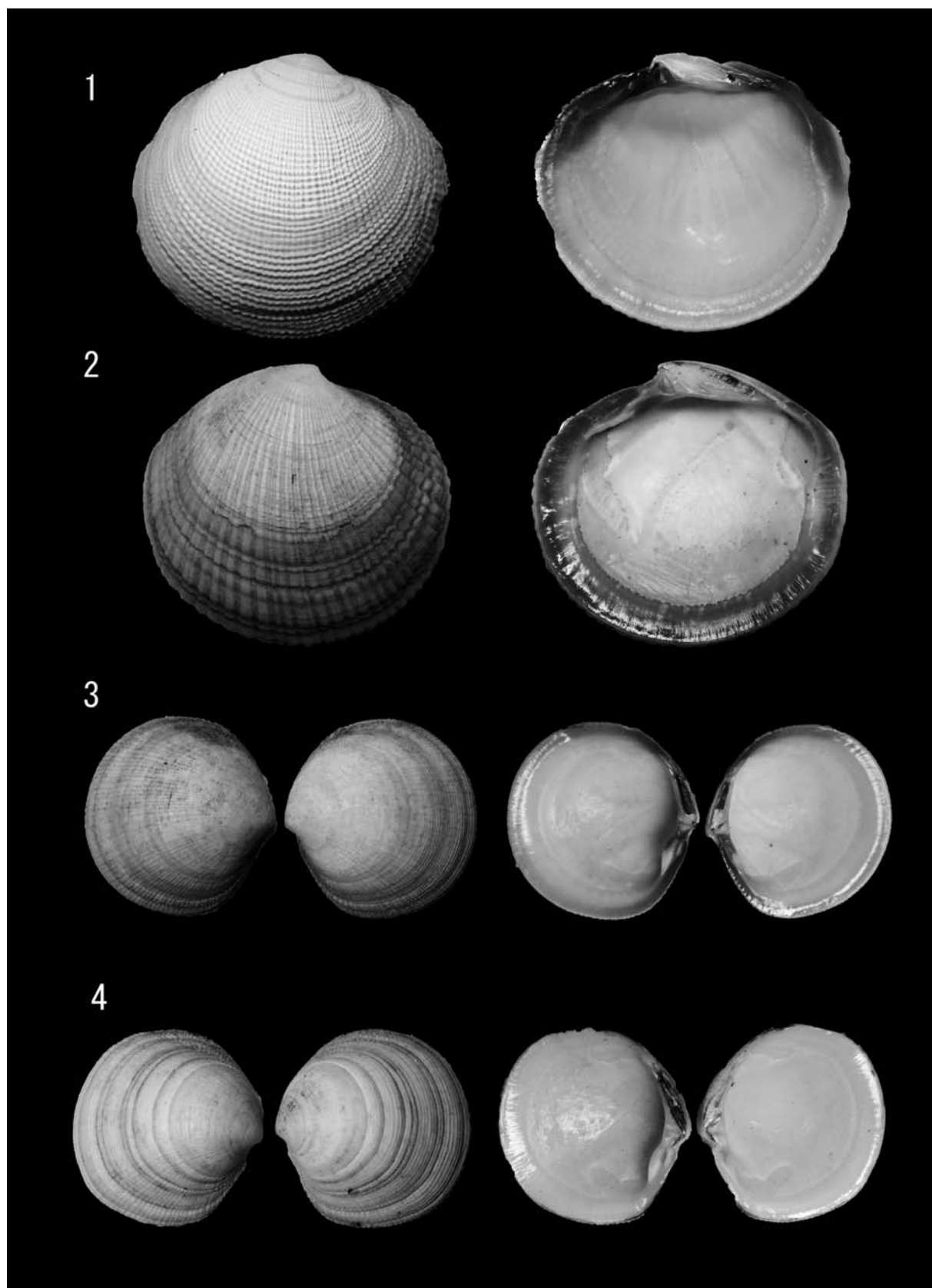


Plate.2

1. ウミアサ *Epicodakia delicatula* (Pilsbry, 1904)
静岡県下田市白浜, 1932/8/12, 殻長13.4mm, 殻高12.0mm, [Sh002779].
2. ヒメツキガイ *Epicodakia bella* (Conrad, 1837)
沖縄県, 採集日不明, 殻長27.4mm, 殻高27.1mm, [Sh002771].
3. ホソスジヒメツキガイ *Epicodakia* sp.
神奈川県鎌倉市腰越, 採集日不明, 殻長17.1mm, 殻高15.1mm, [Sh021298].
4. ウメノハナガイ *Pillucina pisidium* (Dunker, 1860)
三重県鈴鹿市白子, 1931/8/6, 殻長10.1mm, 殻高10.4mm, [Sh002772].

Plate.2

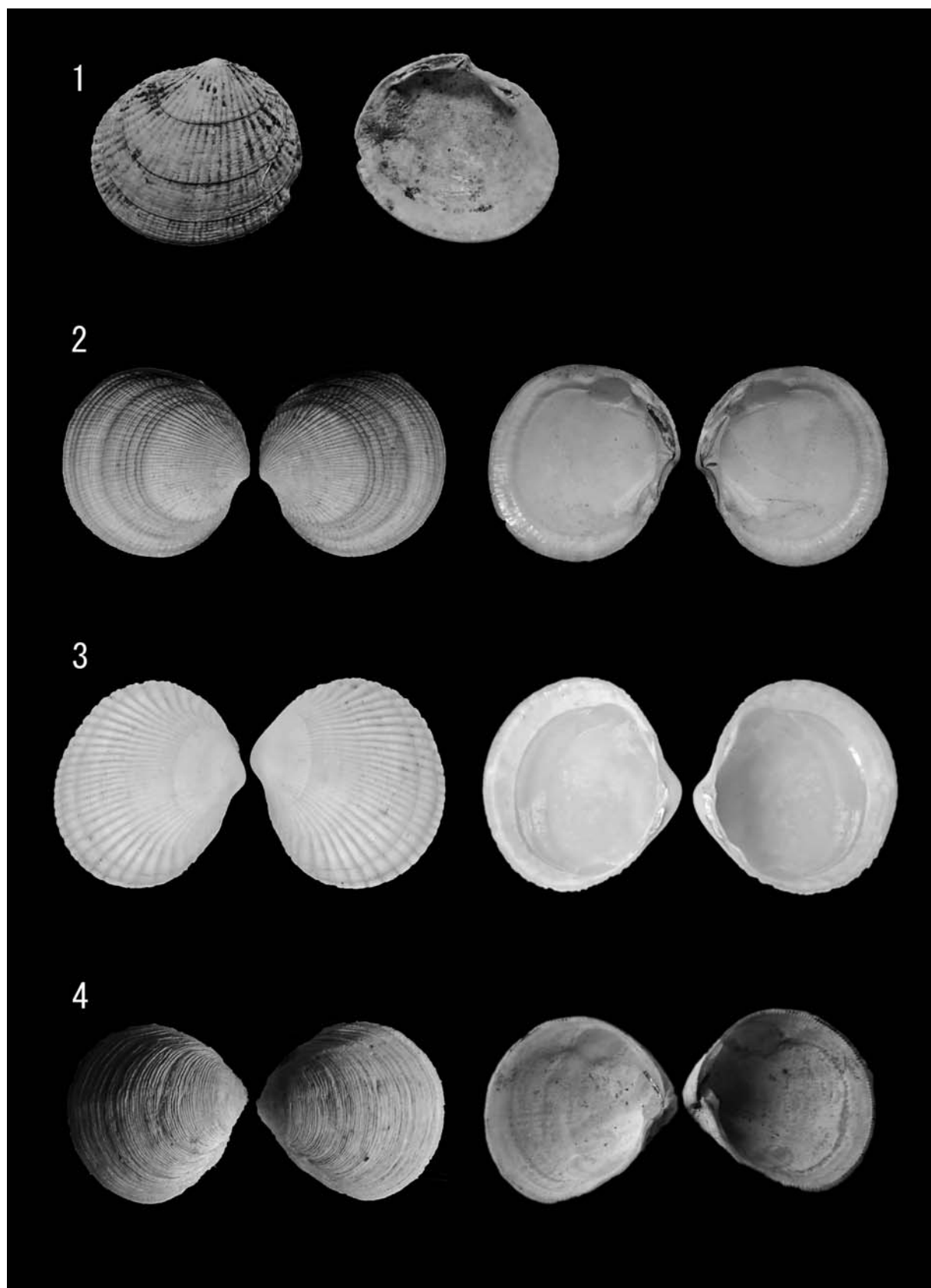


Plate.3

1. アラウメノハナ *Pillucina yamakawai* (Yokoyama, 1920)
三重県度会郡南伊勢町古和浦, 採集日不明, 殻長5.2mm, 殻高5.0mm, [Sh002765].
2. ムツキウメ *Bellucina civica* (Yokoyama, 1927)
長崎県, 採集日不明, 殻長5.4mm, 殻高4.8mm, [Sh002766].
3. ツキガイモドキ *Lucinoma annulatum* (Reeve, 1850)
神奈川県, 採集日不明, 殻長37.1mm, 殻高34.5mm, [Sh002743].
4. オオツキガイモドキ *Lucinoma spectabils* (Yokoyama, 1920)
鹿児島県鹿児島市新島町燃島, 採集日不明, 殻長38.1mm, 殻高34.0mm, [Sh002740].
5. ヨシダツキガイモドキ *Lucinoma yoshidai* Habe, 1958
三重県伊勢市東大淀町, 採集日不明, 殻長29.1mm, 殻高28.3mm, [Sh021297].

Plate.3

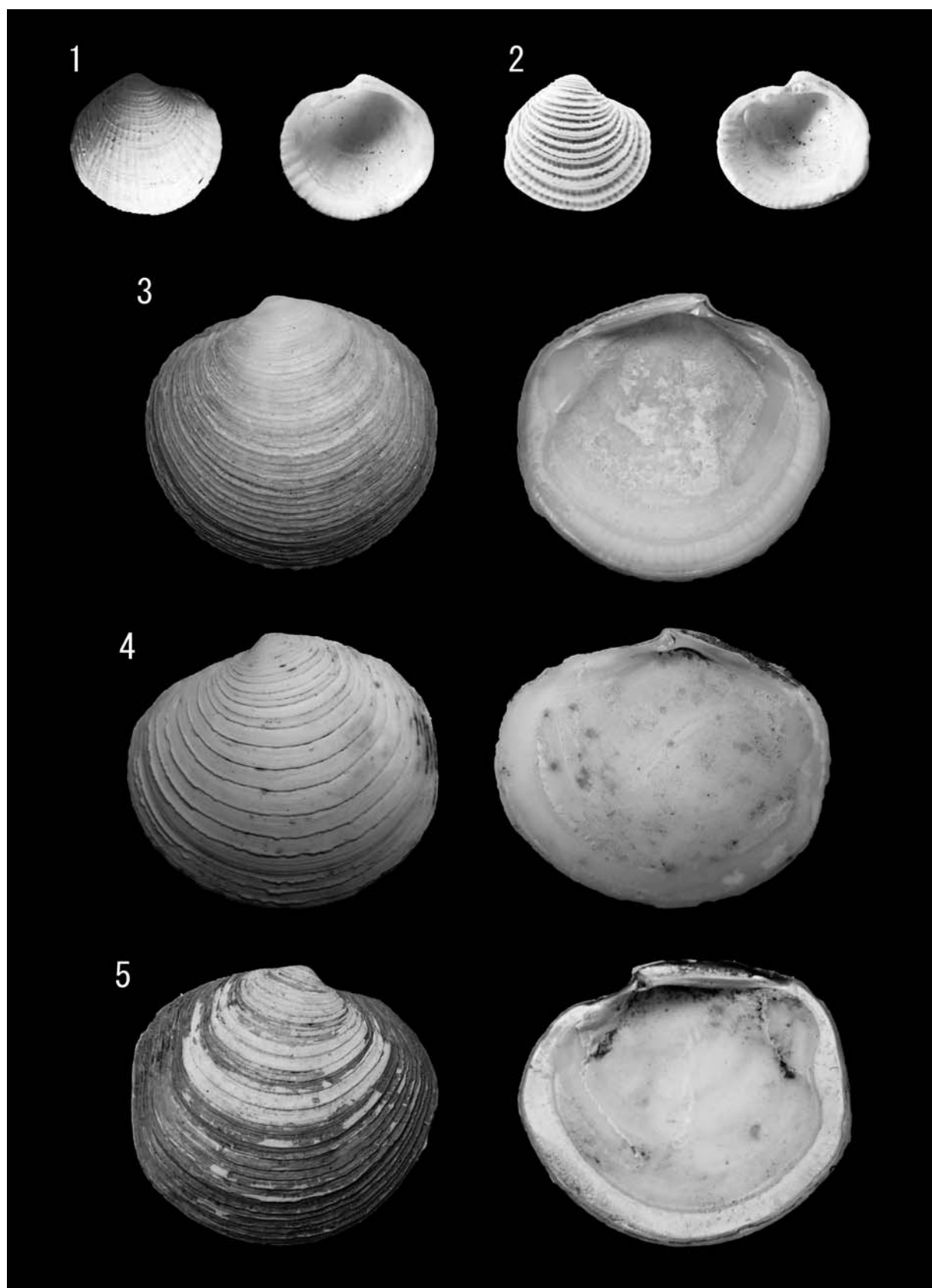


Plate.4

1. カブラツキガイ *Anodontia edentula* (Linnaeus, 1758)
沖縄県, 採集日不明, 殻長30.1mm, 殻高28.4mm, [Sh002754].
※ 膨らみが小さい個体
2. カブラツキガイ *Anodontia edentula* (Linnaeus, 1758)
沖縄県, 採集日不明, 殻長39.6mm, 殻高37.1mm, [Sh002742].
3. カブラツキガイ *Anodontia edentula* (Linnaeus, 1758)
沖縄県 (小湾), 採集日不明, 殻長34.9mm, 殻高32.9mm, [Sh002753].
※ 膨らみが大きい個体
4. イセシラガイ *Anodontia stearnsiana* Oyama, 1954
三重県津市, 採集日不明, 殻長72.5mm, 殻高63.6mm, [Sh002758].
5. カゴガイ *Fimbria soverbii* (Reeve, 1841)
沖縄県, 採集日不明, 殻長65.3mm, 殻高47.2mm, [Sh002786].

Plate.4

